

外構工事を やらなかつた場合に 発生する大きな 4つの問題

- 1.境界問題**
- 2.外からの視線を感じる問題**
- 3.雨の日問題**
- 4.雑草問題**

それぞれについて解説いたします。

お隣へ土や砂利が流れ込む

境界の問題は実はかなりシビアです。

大きなトラブルに発展する危険もありますので十分な注意が必要です。当たり前ですが、空中も含め、絶対に自分の敷地を超えてお隣にエクステリアを設置してはなりません。樹木を植えた場合には、隣の境界を越えそうになったらすぐに切るなど、伸びた枝がお隣の土地に入ってしまうことも極力避けなければなりません。お隣との敷地境界には通常、ブロックを積む、フェンスを設置するのが一般的です。仮に何もしなかった場合、特に雨の日にお隣の敷地へ自分の敷地内の土や砂利等が流れ込む場合があります。自分の土地の方がお隣の土地よりも高さが高ければ可能性はより高くなります。お隣に迷惑を掛けたくない、余計なもめ事を起こしたくない場合は検討するべきでしょう。



※一般的にはブロックを使う



※このように枕木(30年経過しても腐らない防腐処理済のもの)を使うこともある

誰でも敷地内に入ってしまう

オープン外構のメリットの一つとして、「防犯」が挙げられます。周囲から丸見えとなってしまうオープン外構は、不審者が身を隠す場所がないため侵入しにくいのです。逆に言うと、塀がないため、誰でも容易に敷地内に入ることが出来てしまいます。

◎前面道路がそれほど広くない場合、すれ違いの時など通行する車が敷地内に入ってしまう。

◎近所の子供が遊んでいるときに、自分の庭に勝手に入ってしまう。

◎玄関の前にインターフォンが設置されている場合、望まない飛び込み営業や宗教の勧誘の人が敷地内に入ってくる。といったケースが想定されます。

そうは言ってもブロックや塀で囲めば上記の心配が完全になくなる訳ではありません。まずはご自分が許容できる範囲を決めて、なるべく知らない人に敷地内に入られたくないのであれば、門柱付きのインターフォンを道路沿いに付ける、道路沿いはフェンスを設置することを検討すると良いでしょう。



※敷地をブロック塀などで囲わないオープン外構の例

2 外からの視線を感じる問題

人の視線が気になる

オープンな外構では、基本的に柵やフェンスなどは設置しません。そのため、外から自分が丸見えになっているというケースが発生します。「そんなことは気にしない」と言う方は問題ないですが、気になるという方は、気になる部分のみフェンスを設置する、植栽を植えて視線避けにする、といった対策をしたほうがいいでしょう。

想定される視線が気になる場面

- ✓ 中庭でガーデニング作業をしている時に丸見え
- ✓ リビングでくつろいでいる時に隣の家、または通行人からリビングが丸見え
- ✓ 隣の建物との距離が近く、カーテンを開けることができない
- ✓ 玄関ドアを開けた瞬間、通行人と目があった
- ✓ お風呂に入っている時に道路の通行人や隣からの視線が気になり窓が開けられない



対策 1 フェンスを使う

例えば右写真のようなフェンスだと、長さ・高さを自由に設定できるので、隠したい場所を効率的に隠すことができます。
木目調で写真のように何枚かだけ色を変えることも可能なのでおしゃれなフェンスが出来上がります。



※隣の家の窓を適度に隠すことができる。
写真はF&F社製マイティウッド。

⚠ フェンス設置の際に注意したいこと

- ✓ フェンス高さは1.6M～1.8Mがおススメ
高さを2M以上にしてしまうと「囲われている」という結構な圧迫感が出ます。そしてお隣の方への印象が悪くなるケースもあります。
- ✓ フェンス材とフェンス材の間に1センチか2センチの隙間を開ける
写真は2センチの隙間ですが、これでも十分な目隠し効果があります。風通しを良くして強風でもフェンスの倒壊を防ぐ目的もあります。目隠しをより強調したいなら隙間は1センチがおススメです。

対策2 植栽を使う

フェンスよりも費用を抑えてピンポイントで目隠しをしたいなら植栽を使うことがおススメです。

⚠ 植栽設置の際に注意したいこと

植栽には常緑樹と落葉樹があり、常緑樹は冬でも下記写真のように葉が落ちませんが、落葉樹は冬に葉が落ちます。ですから、年間を通して目隠し効果を出したいなら常緑樹にするべきです。



植栽は成長する

当然ですが、植栽は徐々に成長し、たいていの高木は放置しておけば5M以上にもなってしまいます。枝もどんどん伸びていくので、枝がお隣の敷地内に入ってしまうこともあります。トラブルの原因にもなりかねないので、伸びてきたら切るという適度な剪定（せんてい）は必要になります。庭のシンボルツリーに適した植栽は割と剪定も容易です。

※常緑樹のシマトネリコ。
このくらい成長すれば適度な目隠しになる。

3 雨の日問題

これはエクステリアを考える中で最重要と言っていいかもしれません。

仮に駐車スペースを何もしないで土や少しの砂利のままだと、雨の日には下記写真のようにドロドロになります。そうすると、車は汚れます。車を降りてから玄関に行くまでに靴や衣服が汚れます。そして、汚れた靴や衣服で玄関に入れば、玄関ポーチも汚れます。

雨が降る度に車を洗う、玄関も洗う、靴も洗うってかなりの苦痛じゃないですか？

ですから、駐車場から玄関に入るまで、人や玄関が汚れないようにエクステリアを配置するというのは必須の考え方です。



建物の基礎や外壁も汚れる

意外に知られていないかもしれません、建物の基礎の周りが土のままだと、雨の日に泥が跳ねて建物基礎や外壁は汚れます。仮に外壁の色が白系だと余計に汚く見えてしまいます。場合によってはサッシまで泥が跳ねて汚れる場合もあり、これらの泥はねを洗い落とすのは意外と大変です。

対策としては、建物周りには防草シートを敷いて、その上に砂利（6号碎石）を敷く。というのが一般的です。私は、砂利も良いと思いますが、リサイクル材の瓦チップをおススメしています。

4

雑草問題

雑草対策は、敷地の中で土になっている部分全てです。土のままだとほとんどの場合、雑草が生えてきます。ですから、敷地が広い方の場合は対策をすればそれだけ費用も掛かります。でも何もしなければ草ボウボウで見た目は悪くなるし、虫も湧いてきます。小さい子がいる場合は、外で遊べなくなります。



対策 防草シートを敷く

防草シートを敷くことにより、雑草の光合成を防止し、発育を防止することができます。

ただ、防草シートを敷いたからといって、絶対に雑草が生えないわけではありません。

注意すべきは、防草シートの種類です。

ホームセンターでよく見かける右写真のような網目の粗い防草シートは敷かない方が良いです。早ければ 2 年目くらいにシート自体が劣化し、雑草が下から突き抜けて生えてきます。

そうすると、全部やりかえなければならなくなります。意味がないどころか、やり直すのにシートの上の砂利をいつたん避けて、シートを張り替えて、また砂利を戻すというかなりの手間が掛かってしまうからです。



ですから、防草シートは網目が密で強度が強い右写真のタイプを使うべきです。こちらのタイプだと雑草が下から突き抜けることはまずありません。

しかし、強度の強い防草シートを敷けば、雑草が生えてこないことは実はありません。

雑草は、駐車場のコンクリートのちょっとした隙間や道路のアスファルトの割れ目などからも出てくるほど強い植物。

例えば、防草シートと基礎の少しの隙間からも生えてきます。



※グリーンフィールド社製：ザバーン

雑草の種は風などによって運ばれてくる

また、風で運ばれてきた雑草の種が防草シート上の砂利に落ちはれば、そこから雑草は生えます。でも、先ほどのような強い防草シートを敷いてあれば、雑草が深く根を張ることが出来ません。だから簡単に抜けます。



※このように雑草はシートの下まで
根を張ないので簡単に抜ける

仕上がりは砂利が一般的

防草シートの上に敷くものとして、建物の周りであれば、砂利敷き。
子供やペットが遊ぶ中庭は天然芝か人工芝が一般的です。



※6号碎石（砂利の一種）の仕上がり。
踏むと音がすることから防犯砂利とも呼ばれる

私のオススメは瓦チップ。ここでは詳細に触れませんが、リサイクル材のため安価な上に、保水効果、照り返し抑制の効果などがあり、見た目もおしゃれになります。



※瓦チップの仕上がり